

令和8年8月3日

予察情報8-11

病害虫発生予察情報 第5号

富山県農林水産総合技術センター所長

8月の病害虫発生予報

【予報の概要】

野菜				果樹					
作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	いもち病（穂いもち）	少ない	早い	野菜	白ねぎ	さび病	少ない	—	
	紋枯病	多い	—			黒斑病・葉枯病	並	—	
	ごま葉枯病	多い	—			ネギアザミウマ	多い	—	
	斑点米カメムシ類					ネギハモグリバエ	やや少ない	—	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	多い	—			シロイチモジヨトウ	多い	—	
	アカスジカスミカメ	多い	—	果樹	果樹全般	果樹のカメムシ類	多い	—	
	トゲシラホシカメムシ	多い	—		りんご	褐斑病	並	—	
	クモヘリカメムシ	やや多い	—			輪紋病	並	—	
	ツマグロヨコバイ	多い	—			炭疽病	少ない	—	
	ヒメトビウンカ	多い	—			ハダニ類	やや多い	—	
	セジロウンカ	並	—			カイガラムシ類	少ない	—	
	トビイロウンカ	並	—		日本なし	黒星病	少ない	—	
	コブノメイガ	並	—			ハマキムシ類	やや多い	—	
大豆	葉焼病	少ない	—			ナシヒメシンクイ	多い	—	
	紫斑病	やや少ない	並			ハダニ類	やや多い	—	
	ウコンノメイガ	少ない	—			カイガラムシ類	少ない	—	
	フタスジヒメハムシ	やや多い	—		ぶどう	べと病	少ない	—	
	アブラムシ類	並	—			黒とう病	少ない	—	
	ハスモンヨトウ	やや少ない	—		かき（三社）	フジコナカイガラムシ	やや少ない	—	
	吸実性カメムシ類	多い	—		もも	モモハモグリガ	少ない	—	
	ハダニ類	多い	—			ナシヒメシンクイ	多い	—	
野菜全般	アブラムシ類	やや多い	—	花き	きく	黒斑病・褐斑病	並	—	
	ネキリムシ類	やや多い	—		花き全般	アブラムシ類	並	—	
						タバコガ類	多い	—	
				ネキリムシ類				やや多い	—

発生量

多い : 平年比 141%以上
 やや多い : 平年比 121%以上 140%以内
 並 : 平年比 80%以上 120%以内
 やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内
 少ない : 平年比 59%以下

発生時期

早い : 平年値より 6 日以上早い
 やや早い : 平年値より 3～5 日早い
 並 : 平年値を中心として前後 2 日以内
 やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い
 遅い : 平年値より 6 日以上遅い

予報の根拠中の

（＋）：発生量が多くなる要因、（±）：平年並み発生要因、（－）：少くなる要因

（早発）：発生が早くなる要因、（並）：平年並になる要因、（遅発）：遅くなる要因 をそれぞれ示す。

I 水 稲

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
 発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・ 出穂日は平年より早かった。（早発）
- ・ 7月20日調査において発病は確認されなかった。（－）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（－）
- ・ 8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：34～35 ページ参照



図1 穂いもちり病穂

2 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の発病株率は1.8%で、平年（1.2%）より多かった。（＋）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- ・ 8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：31～32ページ参照



図2 紋枯病り病株

3 ごま葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の発病株率は5.0%で、平年（0.4%）より高かった。（＋）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）

(3) 防除対策

- ・ 適切な水管理や追肥により稲体の活力維持に努める。
- ・ 防除指針：36 ページ参照



図3 ごま葉枯病り病葉

4 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

（１）予報内容 発 生 量：多い

（２）予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は9.0頭で平年（3.2頭）より多く、確認地点率は53％で平年（44％）よりやや高かった。（＋）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）

（３）防除対策

- ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈り後も雑草の穂が出ないように草刈りを徹底する。やむをえず出穂している雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草対策を徹底する。
- ・ 早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を徹底する。また、中生品種および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・ 周辺に雑草地や麦あと等の不作付地がある場合は、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるため、特に防除を徹底する。
- ・ 防除の際には、薬剤が他作物へ飛散しないように注意し、畦畔にも十分薬剤がかかるように散布する。
- ・ 割刈の発生が多いと予想される場合や散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加防除を実施する。
- ・ 令和8年7月9日発表の病害虫発生予察注意報第3号、防除指針：44、46～47ページ参照

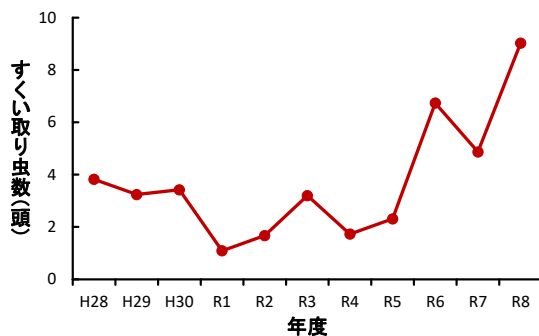


図4 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地
すくい取り状況年次推移（7月20日調査）



図5 アカヒゲホソミドリカスミカメ

5 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は10.4頭で、平年（2.6頭）より多く、確認地点率は42%で平年（26%）より高かった。（+）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。

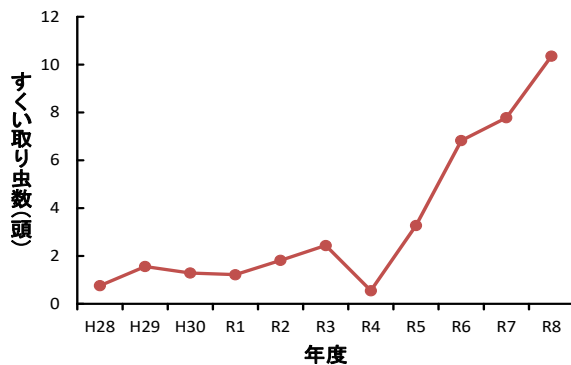


図6 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）



図7 アカスジカスミカメ

6 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.4頭で、平年（0.2頭）より多く、確認地点率は22%で平年（11%）より高かった。（+）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずるとともに、本種が優先するほ場においては、有機リン系剤等で防除する。
- ・ 防除指針：45～47ページ参照

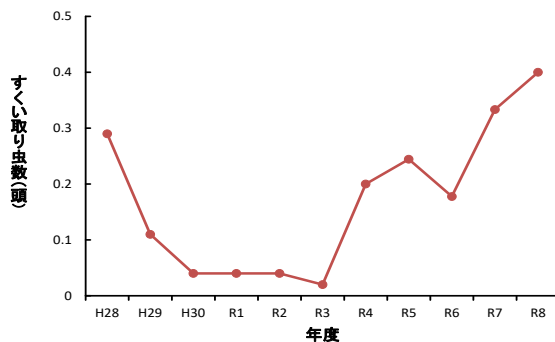


図8 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）



図9 トゲシラホシカメムシ

7 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）

（1）予報内容 発 生 量：やや多い

（2）予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.04頭で、平年（0.06頭）並で、確認地点率も2.2%で平年（2.7%）並であった。（±）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

（3）防除対策

- ・ クモヘリカメムシは成虫と水田内で孵化した幼虫は、登熟初期から後期まで稲穂を吸汁加害する。割籾をしていなくても加害するので、発生の多い地域では品種を問わず穂揃期と傾穂期の2回防除を徹底する。
- ・ 散布後も本種がみられる場合は追加防除を実施する。
- ・ 令和8年7月9日発表の病害虫発生予察注意報第3号、防除指針：44～47ページ参照

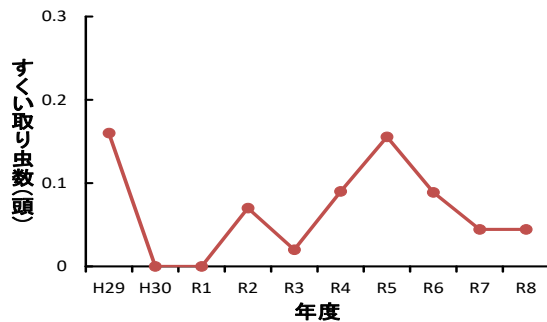


図10 クモヘリカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）



図11 クモヘリカメムシ

8 ツマグロヨコバイ

（1）予報内容 発 生 量：多い

（2）予報の根拠

- ・ 7月20日調査のすくい取り虫数は20.6頭で、平年（3.1頭）より多かった。（+）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

（3）防除対策

- ・ 防除指針：41ページ参照



図12 ツマグロヨコバイの雌成虫（上）と雄成虫（下）

9 ヒメトビウンカ

（1）予報内容 発 生 量：多い

（2）予報の根拠

- ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は6.3頭で、平年（3.0頭）より多かった。（+）
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

（3）防除対策

- ・ 防除指針：42ページ参照

10 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は0.2頭で、平年(1.1頭)より少なかった。(－)
 - ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：42ページ参照

11 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 現在、発生は確認されていない(平年の初発は8月31日)。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：42ページ参照

12 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 現在、発生は確認されていない。(平年の初発は8月1日)
- (3) 防除対策
 - ・ 晩植田で多発することが多いので注意する。
 - ・ 防除指針：43ページ参照

Ⅱ 大 豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・ 7月25日調査の発病度は0で、平年(0.4)より低かった。(－)
 - ・ 8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 発生初期の防除が有効であるため、ほ場を巡回し、発生を確認した場合は速やかに防除する
 - ・ 防除指針：57ページ参照



図 13 葉焼病の罹病葉

2 紫斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の紫斑粒率は0.49%で、平年（0.82%）より低かった。（－）
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・2回の基本防除（8月2～3半旬と4～5半旬）を徹底する。
 - ・防除指針：56 ページ参照

3 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・7月25日調査の被害株率は0.4%で、平年（16.1%）より低かった。（－）
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
 - ・幼虫による葉巻の発生量を確認し、7月6半旬における1本当当たりの平均葉巻数が6個以上の場合は、8月上旬まで（若・中齢幼虫期）に遅れず防除を実施する。
 - ・防除指針：57～58 ページ参照



図 14 ウコンノメイガ幼虫による葉巻き

4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・7月25日調査の払い落とし虫数は0.03頭で、平年（0.03頭）並であった。（±）
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・払い落とし調査を行い、ほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期（8月上旬～9月上旬）に防除する。
 - ・防除指針：59 ページ参照



図 15 フタスジヒメハムシ成虫

5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・7月25日調査の寄生株率は0.0%で、平年（0.4%）より低かった。（－）
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・防除指針：58 ページ参照



図 16 葉に寄生するアブラムシ

6 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の累計誘殺数は37頭で、平年(91頭)より少なかった。(－)
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・防除指針：60 ページ参照

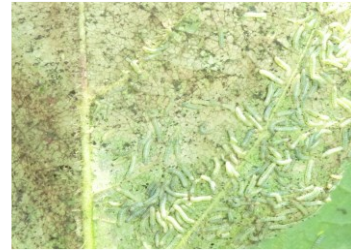


図 17 ハスモンヨトウの幼虫

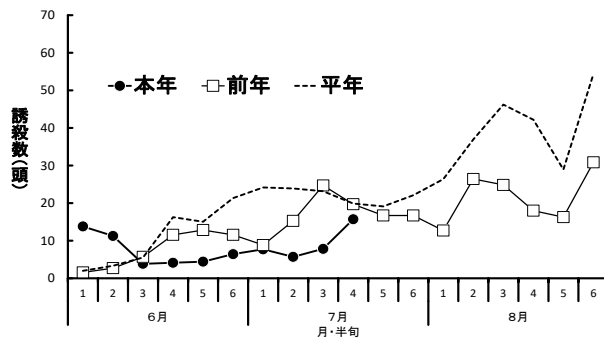


図 18 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

7 吸実性カメムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・7月25日調査の払い落とし虫数は0.39頭で、平年(0.13頭)より多かった。(＋)
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)



図 19 ダイズ吸実性カメムシ類 (左) イチモンジカメムシ、(中) トゲシラホシカメムシ、(右) ホソヘリカメムシ

- (3) 防除対策
- ・成虫侵入期の8月中旬頃(莢伸長期)と成虫侵入盛期から2週間後の8月下旬頃(子実肥大期)の基本防除を徹底する。
 - ・多発が懸念されるほ場では、発生状況に応じて追加防除を行う。
 - ・防除指針：58～59 ページ参照

8 ハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・7月25日調査の寄生株率は10.5%で、平年(2.4%)より高かった。(＋)
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・高温・乾燥条件下では短期間で増殖し、被害が拡大する。ほ場でハダニの被害が確認され、高温・乾燥気候が続くと予想された場合は、薬剤による防除を行う。
 - ・防除指針：57 ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 アブラムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の各種園芸作物における寄生虫数は平年と比べ、やや多かった。(＋)
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：71～134 ページのアブラムシ類の項参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の累計誘殺数はタマナヤガが22頭で平年（23頭）並、カブラヤガは100頭で、平年（66頭）より多かった。(±)
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ ほ場周辺の雑草は、播種・定植の1週間前までに刈り取る。
- ・ 定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・ 防除指針 73～132 ページのネキリムシ類の項参照

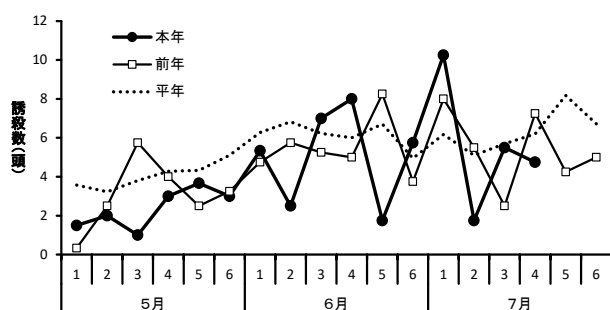


図 20 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

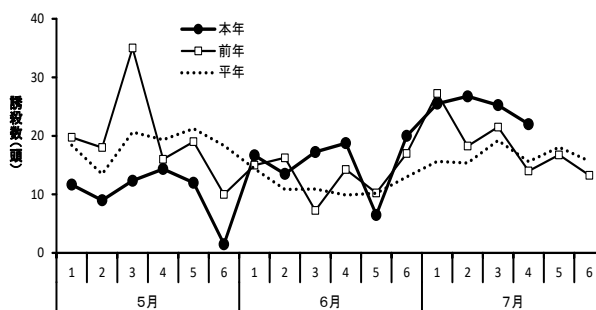


図 21 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

3 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の発病株率は3.2%で、平年（16.9%）より少なかった。(－)
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(－)
- ・ 8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 定期的に予防剤を散布するとともに、発生がみられた場合は治療効果の高い剤で防除する。
- ・ 防除指針：100～101 ページ参照



図 22 さび病の病徴
(夏孢子)

4 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の発病株率は8.0%で、平年(11.8%)よりやや低かった。(－)
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 気温が高く、降雨が多い場合に多発しやすいので、発病初期から定期的に薬剤を散布する。
- ・ 防除指針：101 ページ参照



図 23 黒斑病の病徴

5 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の被害株率は59.2%で、平年(47.6%)よりやや高かった。(＋)
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・ 防除指針：103 ページ参照



図 24 ネギアザミウマの被害葉

6 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の被害株率は2.4%で、平年(12.6%)より低かった。(－)
- ・ 8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・ 防除指針：102 ページ参照



図 25 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害

7 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の累計誘殺数は83.2頭で、平年(64.0頭)よりやや多かった。(＋)
- ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)



図26 中齢幼虫(左)と被害葉(右)

- ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ほ場を定期的に確認し早期防除に努める。中～老齢幼虫はネギの葉身内に侵入し、薬剤の効果が低くなるため、若齢幼虫期までに防除を実施する。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・令和8年6月12日発表の病害虫発生予察注意報第2号、防除指針：103ページ参照

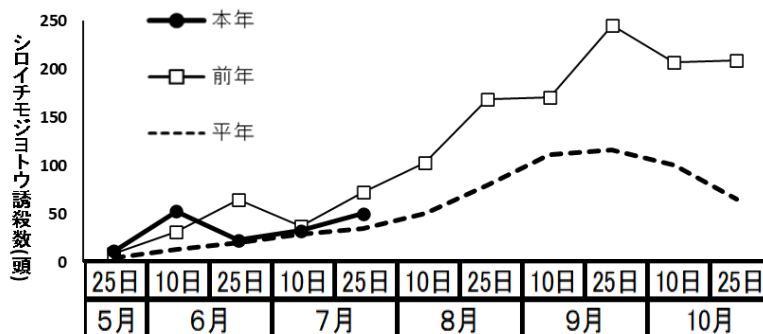


図27 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の累計誘殺数は29.7頭で平年(6.3頭)より多かった。(＋)
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・令和8年5月21日発表の病害虫発生予察注意報第1号参照。
 - ・防除指針：りんご 139、144、148～149 ページ、日本なし 156、160～161 ページ
ぶどう 167 ページ、かき 168、171～172 ページ、もも 174～176、178 ページ参照



図 28 チャパネアオカメムシの成虫（左）と卵（右）

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量は平年並である。(±)
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないように注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分確保する。
 - ・発生がみられる園地では、トップジンM水和剤（1,500倍）を散布する。
 - ・防除指針：139～142、147ページ参照



図 29 褐斑病の初期病斑（左）と進行した病斑（右）

3 りんごの輪紋病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・防除指針：139、141～142、147 ページ参照

4 りんごの炭疽病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。（－）
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、オーソサイド水和剤 80（800 倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・防除指針：139～142、147 ページ参照



図 30 炭疽病のり病果

5 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量は平年並である。（±）
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを定期的 to 実施し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらがあると効果が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RAC コードを参考に同一系統の薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
 - ・防除指針：144～146、148～149 ページ参照



図 31 ナミハダニの成虫

6 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量は少ない。（－）
- (3) 防除対策
- ・第3世代歩行幼虫発生期（平年：8月中旬）は重要防除時期なので適期防除に努める。
 - ・発生の多い園地では、オリオン水和剤（1,000倍）を散布する。
 - ・防除指針：143～144、148～149 ページ参照

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生が多い場合は、収穫前にオーソサイド水和剤 80 (1,000 倍、収穫 3 日前まで) を散布する。
 - ・防除指針：152～155、159 ページ参照



図 32 黒星病のり病果

8 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる 6 月 4 半旬～7 月 3 半旬の累計誘殺数は 4.4 頭で平年 (3.2 頭) よりやや多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：152、155～156、160～161 ページ参照

9 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる 6 月 4 半旬～7 月 3 半旬の累計誘殺数は 17.6 頭で平年 (10.3 頭) より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤 (2,000 倍、収穫前日まで) を散布する。
 - ・防除指針：152、155～156、160～161 ページ参照

10 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は平年並である。(±)
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・園地の草刈りを定期的 to 実施し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらがあると効果が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統の薬剤は年 1 回の使用とする (アカリタッチ乳剤は除く)。
 - ・防除指針：157～158、160～161 ページ参照

11 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(一)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：155～156、160～161ページ参照

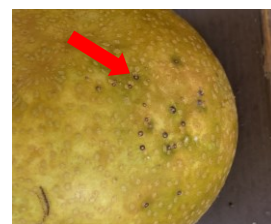


図 33 ナシマルカイガラムシによる被害果

12 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(一)
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・り病した果房や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：163～166ページ参照

13 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(一)
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・り病した葉や新梢などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生がみられる園地では、銅水和剤又はサンケイ園芸ボルドー（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、高温時に散布すると、薬害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・防除指針：163～166ページ参照

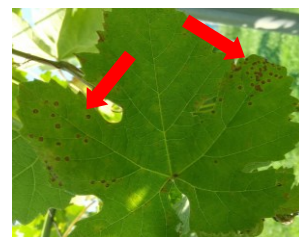


図 34 黒とう病のり病葉

14 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の累計誘殺数は60.5頭で平年(84.0頭)よりやや少なかった。(一)
- (3) 防除対策
 - ・発生の多い園地では、コルト顆粒水和剤(2,000～3,000倍、収穫前日まで)を散布する。
 - ・防除指針：168～169、171～172ページ参照



図 35 フジコナカイガラムシの雌成虫

15 もものモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発 生 量 : 少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
 - ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の累計誘殺数は5.0頭で、平年(40.9頭)より少なかった。(－)
- (3) 防除対策
 - ・収穫終了後にサムコルフロアブル10(5,000倍)を散布する。
 - ・防除指針: 174～176、178ページ参照

16 もものナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量 : **多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は平年並である。(±)
 - ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の累計誘殺数は55.5頭で、平年(19.7頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・収穫期間中に発生(新梢の芯折れ)がみられる園地では、ディアナWDG(10,000倍、収穫前日まで)を散布する。
 - ・収穫終了後にサムコルフロアブル10(5,000倍)を散布する。
 - ・防除指針: 174～176、178ページ参照

V 花き

1 きくの黒斑病・褐斑病

- (1) 予報内容 発 生 量 : 並
- (2) 予報の根拠
 - ・7月25日調査において発病は確認されなかった。(－)
 - ・8月24日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)
 - ・8月24日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・防除指針: 195～196 ページ参照

2 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量 : 並
- (2) 予報の根拠
 - ・7月25日調査のキクほ場においてアブラムシ類は確認されなかった。(－)
 - ・8月24日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)
 - ・8月24日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・防除指針: 193～216ページのアブラムシ類の項参照

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の累計誘殺数は、タバコガが7.3頭で平年(14.7頭)より少なく、オオタバコガは41.0頭で平年(21.5頭)より多かった。(+)
 - ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
 - ・8月24日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・令和8年7月14日発表の病害虫発生予察注意報第4号(オオタバコガ)
- ・防除指針：201～220ページのオオタバコガの項参照



図36 中齢幼虫(左)と被害葉(右)

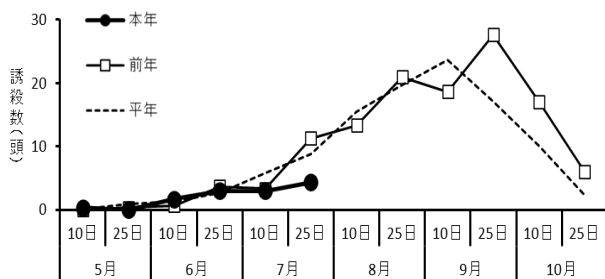


図37 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

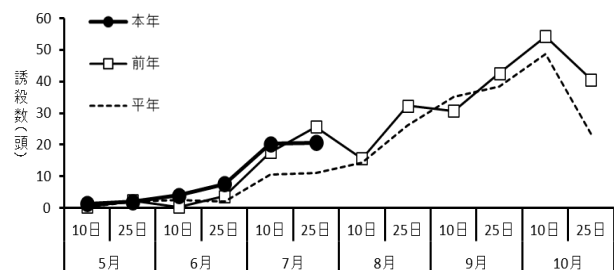


図38 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

4 ネキリムシ類(タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の誘殺数はタマナヤガが22頭で平年(23頭)並、カブラヤガは100頭で、平年(66頭)より多かった。(±)
- ・8月24日にかけての気温は高いと予想されている。(+)

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の1週間前までに刈り取る。
- ・定期的には場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針：201、217ページのネキリムシ類の項参照

令和8年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「使用前、周囲よく見て ラベル見て」
- 富山県の運動期間：農薬の繁忙期である「4月1日～9月30日」

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

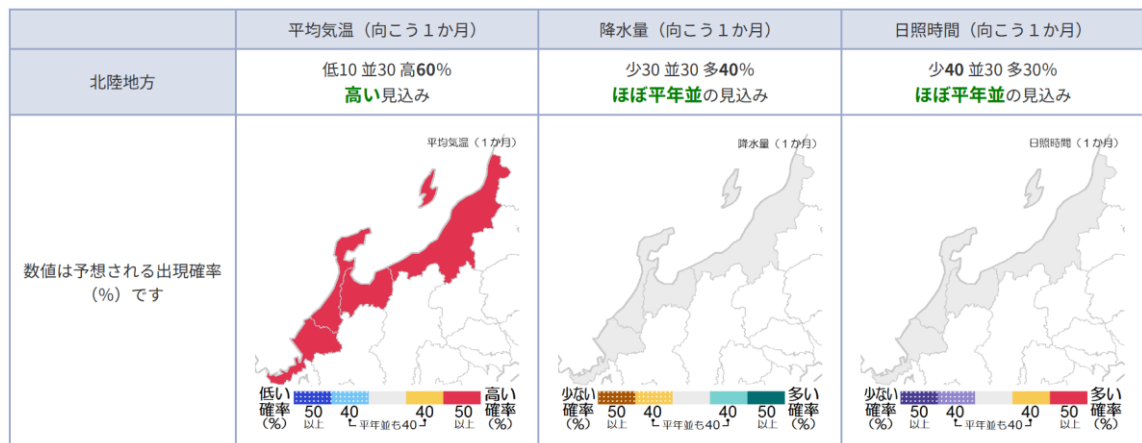
農薬は適用作物以外に使用できません。また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組みが必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 1か月予報
(予報期間 7月25日～8月24日)

7月23日
新潟地方气象台 発表

＜予想される向こう1か月の天候＞

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・ 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974
情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

